

年 組 番 号前

「 」の真実 その五

Kの自殺と遺書

次の如きに答へなれ。 (眞偽性を問つてこの場合は をせむるにいふ。)

(24) 140 上 14 見ると、いつも立て切つてあるKと私の室との仕切りの襖が、Uの間の晩と同じくいい開いています。

Kは何のために襖を開けておいたんだろう?

(25) 141 上 16 自分は薄志弱行で

「薄志弱行」とは何を指してこぬのか?

(26) 141 上 16 じつて「行く先の望みがないから、自殺する

Kの「行く先の望み」とは何だったのか?

(27) 141 下 06 (眞・偽・不明) 必要な事はみんな一口ずつ書いてある中で
お嬢さんの名前だけはUにも見えません。
私はしまいまで読んで、すぐKがわざと回
避したのだといふことに気が付きました。

Kはどうしてお嬢さんのことを書かなかつたのか?
Kはどうしてお嬢さんのことを書かなかつたのか?

(28) 141 下 09 最後に墨の余りで書き添えたらしく見える

客観表現に書き換える

(29) 141 下 10 もつと早く死ぬべきだのになぜ今まで生き
ていたのだろう
「わざと呼べ」とはこのUといふ。

Kの自殺の原因は()であつ、「私」を(恨んでいた・恨んでいなかつた)
なぜなら理由は三点ある。一、Uは……。《以降はナンバリングとラベリングを使い、全体で四
段落の文章とする」といふ。》

以上のUは、その他の情報をもとに、Kは「私」を恨んで自殺したのか、恨んでいなかつたのか、
ノートに論じなむ。《書き出しが次のようにして、()内に語を入れたり、()内の語を選
択したりする」といふ。》